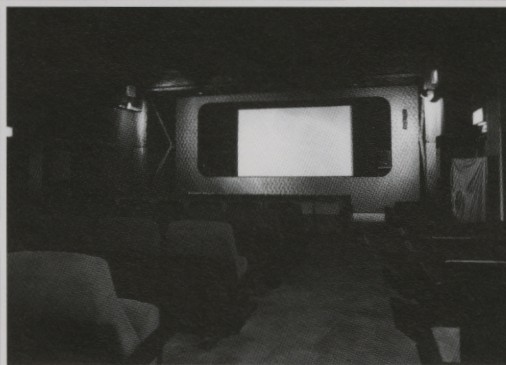




Movie Theaters

The Works of Satoshi Chuma, Projectionist-Photographer

写真展

映画館

映写技師／写真家 中馬聰の仕事

2016年 4.12(火) → 7.10(日)

6月13日(月)～17日(金)、月曜日は休室です。

東京国立近代美術館フィルムセンター 展示室(7階)

開室時間：午前11時～午後6時30分(入場は午後6時まで)

料金：一般210円(100円)／大学生・シニア70円(40円)／高校生以下及び18歳未満、障害者(付添者は原則1名まで)、MOMATパスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料

料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。()内は20名以上の団体料金です。

*学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方はそれぞれ入室の際、証明できるものをご提示ください。

*フィルムセンターの上映企画をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター 企画協力：リトルモア

東京国立近代美術館ホームページ <http://www.momat.go.jp/>

写真(左上から右下) 西尾東映劇場(愛知県)／吉祥寺バウスシアター(東京都)／前田有楽映画劇場(福岡県)／甲南劇場(山梨県)／フィルムリール／本宮映画劇場(福島県)／岡田劇場(宮城県)

東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

あたたかき闇の中へ

映画の発明から120年、映画館は人々が暗闇に集い、眼を開けてともに同じ“夢”を見る特別な空間であり続けてきました。しかし、映写技術がフィルム映写からデジタル・プロジェクションに移り変わる昨今、私たちの想像力を育ててきた国内の歴史ある映画館が次々と閉館しています。その一方、新時代のテクノロジーを受け入れながらも、フィルムによる映写を粘り強く続けている劇場・上映施設も各地に存在します。

この展覧会では、昨年、第一写真集「映画館」(リトルモア刊)を発表した写真家・中馬聡の作品約100点を紹介いたします。中馬は、関西でフィルム映写の技師を勤めながら2007年より全国の映画館をめぐり、その建造物はもちろん、映写室や小さな片隅に至るまで“シネマの匂い”のする場所をくまなく撮り続けてきました。モノクロームを主とするその写真は記録的な価値を持つばかりか、私たちと映画を結びつけてきた空間の限らない親密さも示しています。

またこの機会に、フィルムセンターが所蔵する戦前期の映画館写真も併せて展示し、20世紀文化を先導した映画の大いなる姿をお見せいたします。過ぎ去った映画の記憶を呼び戻すとともに、この社会の中で映画が担ってきた価値を再発見し、さらにこれからの映画文化のかたちを模索するための好機となるでしょう。

トークイベント

- | | | |
|--------|-------------------|------------|
| 4月23日① | アーティスト・トーク 中馬聡氏 | 映画館をめぐる旅 |
| 5月21日① | 荒島晃宏氏 (映写技術者、脚本家) | いまフィルム上映とは |
| 6月11日① | 藤森照信氏 (建築史家、建築家) | 建築としての映画館 |

※詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。

中馬聡 (ちゅうま・さとし)

大阪府出身。京都芸術短期大学卒業。2002年から映画館で働き始め、映写技師を勤める。2006年、吉永マサユキ・森山大道両氏による写真学校「resist写真塾」に参加。2007年より全国の映画館・上映会場の撮影を開始する。2015年、リトルモアより写真集「映画館」を発表。

〒104-0031

東京都中央区京橋3-7-6

お問い合わせ：ハローダイヤル 03-5777-8600

東京国立近代美術館ホームページ

<http://www.momat.go.jp/>

交通

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分



東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo



長瀬映像文化財団

フィルムセンターは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

